

秒も無駄にできない

「お願い。早く来てー」
救急車を待つ患者の心の声が、救急車の中に絶えずこだましている
その声は時間が経過することに大きくなっていく
「すぐに到着します」 救急隊員はこだまする声に何度も答え続ける…



▲ 普段なかなか見ることができない救急車の内部。血圧計や心電図など、様々な計器が整然と配置されている。



現状

6台の救急車で1年間に
9,630件の出動

飯塚地区消防組合には、飯塚消防署に2台、山田消防署に1台、庄内派出所に1台、碓井派出所に1台、そして桂川消防署に1台の合計6台の救急車が配置されています。これも消防車と同様に、救急の要請がどの場所からあっても早く出動できるように決められています。

平成18年中に、飯塚地区で救急車が出動した件数は9,630件。これは一日平均約26件となり、1時間に1回以上救急車が出動している計算になります。

しかし、急病や事故など救急車を必要とする事態は、時と場所を選びません。

もし、飯塚地区内で6台の救急車全てが出動しているときに、あなたが救急車を必要としたならどうなるのでしょうか。

事実、過去に数回、そのような事態が発生したことがあります。

7人目の急患

～実際の現場より～

救急の入電を受けた飯塚地区消防組合には緊張が走りました。6台の救急車は全て出動しています。そして7人目の急患も、まさに一刻を争う事態です。仮に1台目の救急車がすぐに空いたとしても、7人目の急患の場所から遠く離れている可能性があります。

「二秒でも早く救急車が空いて欲しい」



数分後、病院への搬送を終えた救急車からついに連絡が入りました。しかも、7人目の急患の場所から比較的近い救急車からでした。

飯塚地区消防本部指令室は間髪いれず指令を出しました。「至急、患者のそこに向かって下さい」

数十分後、飯塚地区消防本部に一本の連絡が入りました。

「患者を無事、病院へ搬送。これより消防署に戻ります」